

発芽を成功させよう！

ダリアの最新品種と上手な芽出し

多彩な花色に加え複色やグラデーションもたくさんあるダリア。エレガントな色から渋い色まで揃い、花壇でも切り花でも映え、和風にも洋風にも演出できます。最新品種と共にご質問の多い芽出しの方法や、栽培管理についてご紹介します。



わしざわ やすじ
鷺澤 康二

1979年、秋田県秋田市生まれ。大学卒業後、ダリアブームの火付け役「黒蝶」の生みの親でダリアの第一人者の父、幸治のもとでダリア栽培について学ぶ。現在「秋田国際ダリア園」園長。ダリアの魅力を多くの人に知ってもらうため、ダリアの栽培指導、新種の開発に力を注いでいる。

個性豊かな美しさが魅力

ダリアの魅力は、多種多様な品種の豊富さにあります。花径約3cmのかわいらしい極小輪から、30cmにもなる豪華で迫力のある超巨大輪まで幅広く揃います。

花形については、丸くボリュームのある「フォーマルデコラティブ咲き」やシャープな花容の「カクタス咲き」、ひらひらした可憐な「水蓮咲き」、丸くボールのような「ボール咲き」など17種類に分類されています。

多様なダリアは庭植えや花壇、鉢植え、切り花などさまざまなシーンで活躍しています。特に切り花は20年ほど前から徐々に盛んになり、近年は全国で栽培され、冠婚葬祭になくてはならない存在となりました。個性豊かで存在感のあるダリアは、栽培する人、切り花を愛でる人などたくさんの人を楽しませてくれます。

乾燥には強く過湿に注意

ダリアはメキシコやグアテマラなど、夏は涼しく冬は温暖な熱帯の高地に分布する多年生の球根植物で、現在はこれらをもとに多くの園芸品種が作出されています。そのため乾燥には比較的強く、過湿に弱い性質があります。また、夏は冷涼な気候を好み、基本的に暑さにあまり強くありません。近年の猛暑はダリアにも厳しい環境ですが上手に夏越しすれば、初夏に咲いた後、秋に再び美しい花が見込めます。

「ダリアの芽が出なかった」という方の管理方法を聞くと、大切に育てようとして水をやりすぎてしまうことが多いようです。水をやりすぎると球根が呼吸できなくなり、腐ってしまいます。ダリアの栽培においては「過湿にしないこと」を基本に管理するのがよいでしょう。

芽出しを始め1年を通して水をやりすぎないのがポイント

芽出し

ダリアの球根を入手する時期は地域によって異なりますが、春に遅霜が降りる心配がなくなってから定植します。しかし、遅霜の心配がなくなったからといって球根を植え付けても、すぐには発芽しません。ダリアの生育適温は20〜25℃で、地温や気温が上がらなければ、なかなか発芽しません。そのため芽出しを行うことで、より確実に芽を出させることができます。芽出しを始めるタイミングは、定植の2週間くらい前が目安です。

●芽出しの方法

芽出しをするためのコンテナやプランターなどの容器を用意し、そこに5cmほど土を敷き詰めます。容器は底が網状になったものがよく、ない場合は水がしっかりとけけるようにしましょう。芽出しに使う用土はバーミキュライトなどが適しますが、水はけがよいものであれば畑の土でもかまいません。球根のクラウン部分（発芽点）が上



を向くように斜めに置きます。複数の品種を並べる場合は、札や球根に油性マジックで品種名を書いておくとういでしょう。

球根を置いた後、球根のお尻の部分に3cmほど覆土（ふくど）しましょう。その後、軽く土を湿らせる程度に水をやりま

●水やり

覆土した部分が乾いたら、軽く湿らせる程度に水を与えます。土に指を差し込み湿り具合を確認してから、水をやるとよいでしょう。やりすぎると腐敗の原因となります。

●置き場所

球根をコンテナやプランターなどに植えた後、室内の日当たりがよく暖かい場所に置きます。発芽し5cm程度芽が伸びてきたら、いよいよ定植となります。

球根を早めに入手したら

球根を芽出しの時期より早く入手した場合は、袋から取り出し、新聞紙に包んで室内の日光の当たらない涼しい場所に保管してください。定植時期から逆算して芽出しを始めるとよいでしょう。

球根が乾燥した場合

球根が乾燥した場合は、芽出しの方法に添って管理してください。球根が腐敗したり過剰に乾燥していない限り、生育適温になれば発芽してきます。

今年注目の最新品種

次々と新しい品種が登場しているダリア。今年も豪華なものからかわいらしいものまで、個性豊かな最新品種をご紹介します。



ダリアの花径と草丈の目安

花径の目安	
大輪	24cm前後
中大輪	21cm前後
中輪	17cm前後
中小輪	13cm前後
小輪	10cm前後

草丈の目安 (第1花の開花時点)	
中高	100～120cm
中	80～100cm
中矮	70～80cm

※秋田国際ダリア園を基準としています。生育環境は栽培条件により花色や形、大きさが変わりますので、あくまで目安としてご利用ください。



●中大輪 ●フォーマルデコラティブ咲き ●中高性

君色 (きみいろ)

クリーム色の弁先にピンクがのり、おしゃれで優しい花色。莖は細めですらりとした草姿になり、切り花にしても映える。早生種で次々と開花する。



●中大輪 ●インフォーマルデコラティブ咲き ●中性

ノーブルライト

花弁の表は淡紫、裏は紫で濃淡があり、表情豊かな複色で咲く。緩やかに波打ち気味ある花容が美しい。莖は中太ですっきり伸び、育てやすい。



●中大輪 ●フォーマルデコラティブ咲き ●中性

薄化粧

白い花弁の先に淡紫がのり、花芯の淡紫と相まって上品で清楚な色合いを楽しめる。中太の莖がすっきり伸び、花形もきれいにまとまる。



●大輪 ●インフォーマルデコラティブ咲き ●中性

翼

翼のような動きのある花弁が特徴で、鮮やかなレモンイエローの花色が目目を引く。太く頑強な莖が大輪を支えて開花の角度もよく、育てやすい。

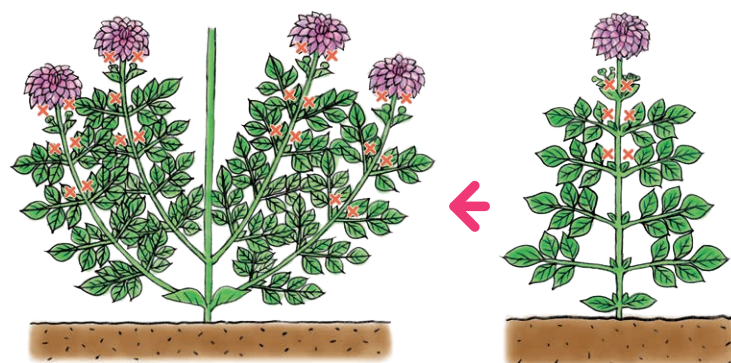
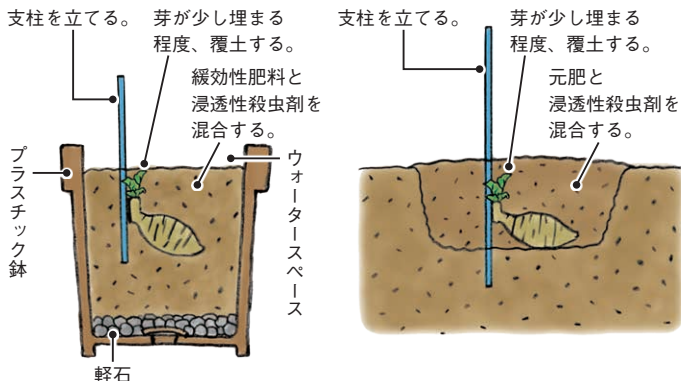
※フォーマルデコラティブ咲き…舟形の花弁が中心まで配列よく満たされた、豪華な花形。 ※インフォーマルデコラティブ咲き…弁先がねじれたり尖ったりし、躍動感のある花形。 ※セミカクタス咲き…花弁の基部は広く、弁先が尖って見える花形。 ※ステラ咲き…舟形の花弁が内側にくるりと巻き、細く伸びる花形。

定植

日当たりと風通しがよく排水のよい場所が適します。排水が悪い場合は高畝にしませう。暖地では4月ごろから初夏に、寒冷地では前述のように遅霜の心配がなくなってから定植します。

庭植え、鉢植え共に、できるだけ伸びた根を切らないようにそっと球根を持ち上げ、定植します。その際、伸びた芽が少し埋まる程度に覆土します。定植後、土が湿る程度に水を与えます。庭植えではその後、芽がしっかりと立っていれば、暑くなるまで水やりは不要です。

鉢植えでは小輪～中小輪では10号以上、中～大輪では12号以上のプラスチック鉢に定植します。水やりは土が乾いたらたっぷり与える程度にします。



2番花

残しておいたわき芽が伸び、2番花が咲く。これらの枝にわき芽が出たら下部2節は伸ばし、それより上部は摘み取る。

1番花

主莖の先につく蕾だけを1番花として咲かせる。下部2～3節にできるわき芽は残し、それより上部のわき芽はすべて摘み取る。

仕立て方

ダリアは放任すると草丈が高くなりすぎて倒れやすくなったり、花が小さくなったりします。丈夫な株に仕立てるには、わき芽を適切に摘む作業が欠かせません。

基本は、主莖の先につく蕾一つだけを1番花として咲かせます。主莖の下にできる蕾をもつ枝は摘み取ります。下部2～3節につくわき芽は残し、それより上につくわき芽はすべて摘み取りませう。

下部のわき芽は次第に伸びて立派な枝となり、2番花を咲かせます。この枝につくわき芽は下部1～2節を残し、それより上部のわき芽を摘むとよいでしょう。



●中輪 ●フォーマルデコラティブ咲き ●中性

サンセットグロー

サーモンピンクに近いオレンジ色で、発色のよい花色が目を引く。茎は特にかたく倒れにくく、初心者でも育てやすい。切り花にも向く。



●小輪 ●フォーマルデコラティブ咲き ●中矮性

キティ

白爪桃の花色がかわいらしい。草丈がコンパクトでバランスのよい草姿にまとなり、鉢植えにも向く。茎がかたく頑強で、初心者におすすめの品種。



●大輪 ●セミカクタス咲き ●中性

飛翔

白の弁先を藤桃色に染める、ボリュームのある大輪。豪華でエレガントな雰囲気の花壇の主役となる存在感を誇り、見る人を魅了する。茎は頑強。



●中大輪 ●インフォーマルデコラティブ咲き ●中性

クラシックレッド

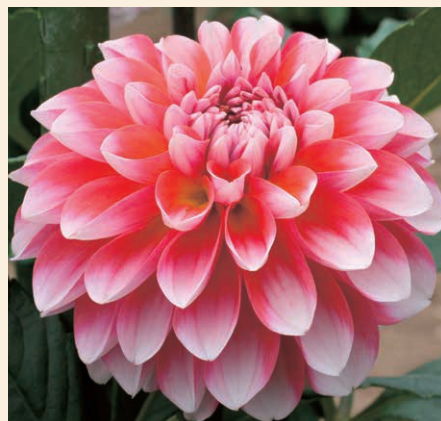
個性的な花形と、シックで深みのある赤色が特徴。茎は中太でかたく、育てやすい。季節によって花色が若干変化するとともに魅力の一つ。



●中輪 ●ステラ咲き ●中性

黄凛 (きりん)

黄色い花弁の裏に淡いピンクがかすめるように入った、ニュアンスのある花色。茎は中太で頑強、花首もしっかりしており、花が上向きに咲く。



●中小輪 ●フォーマルデコラティブ咲き ●中性

花夢 (かむ)

サーモンピンクの弁先に白がのり、かわいらしい印象。早生品種で生育旺盛、次々に開花する。枝によりサーモンピンクの単色が出る場合もある。

肥料

庭植えでは定植前に元肥として堆肥、腐葉土、牛ふんなどを1㎡当たり約5kgと、化成肥料約50gを土壌に全面散布し、深さ30cm程度まで耕します。追肥は定植から70〜80日後に行います。葉の先端の下を1周するように、緩効性化成肥料をまきます。

鉢植えでは定植の際に緩効性化成肥料を土に混ぜ込み、花が咲き始めたら液体肥料や有機質の置き肥で追肥します。

水やり

庭植え、鉢植え共に定植後、土中まで乾燥してからたっぷり水をやる程度にします。水の与えすぎは腐敗の原因になるので気をつけましょう。夏の高温期だけは夕方に1回、たっぷり水をやりま。

葉摘み、花がら摘み

花が終わった枝の葉や、株元で葉が込み合っている場合は適宜摘み取り、風通しよくします。切り花にする場合は、5〜7分咲きで切るのがよいでしょう。終わった花は花首から摘み取ります。

夏越し

夏は寒冷紗などで遮光するのがベストです。難しい場合は、毎日水をやるだけでもよいでしょう。夏の水やりは暑さを軽減する効果があります。鉢植えでは西日の当たらない場所に移動させるのが有効です。

病害虫防除

アブラムシやヨトウムシ、ハダニなどは、それぞれに合う薬剤で初期に防除しましょう。特に近年は、各地でハダニの被害が報告されています。ハダニは高温乾燥が発生しやすい条件なので、防除には葉裏に水やりすることも有効です。

球根の保存

寒冷地では11月上旬を目安に球根を掘り上げます。球根の首が折れないように掘り上げ、茎を3cmほど残して切ります。切り口を乾燥させてから、球根が隠れるまでバーミキュライトなどをかぶせて、5℃前後で保存します。霜が降りない暖地では植えっ放しで越冬できます。いずれの場合も、春に芽が出始めたら発芽点をつけて分球します。

●ダリアが高温で受ける障害

下記のような症状は、高温による影響がほとんどです。気候が安定してくると改善されます。

- 花が奇形になる。
- 色がしっかりと出ない（退色する）。
- 花が焼ける。
- 露芯する（花にボリュームがなくなる）。
- 草丈が伸びない。
- 花が小さい。

●ダリアの花色の変化

ダリアは気候により、花色が変化する品種もあり、その変化を楽しむのも醍醐味です。例えば、赤色は高温期は黒みがかったり紫がかったりします。また、晩秋にオレンジに変化したりもします。

- 赤→紫、黒、オレンジ
- 黒→赤
- 紫→赤、赤紫、ピンク
- 淡ピンク→白
- 赤／白の複色→赤の単色
- オレンジ／白の複色→オレンジの単色
- 黄／白の複色→黄の単色
- サーモンピンク→オレンジ
- 黄からピンクのようなグラデーション系は、どちらかの色に偏る場合があります。